

# 清友

No. 51

2013年11月



新宿御苑菊花壇(大作り)

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



## 11月28日 関東の名刹平林寺で 紅葉狩ウォーキング

### 平林寺ウォーク案内

- 開催日 11月28日(木)
- 場所 平林寺(新座市)
- 集合 JR武蔵野線新座駅南口  
午前10時
- コース 新座駅南口を出発  
野火止緑道をのんびり歩いて平林寺へ(境内散策は約1時間を予定)  
散策後昼食(現地の状況を見て各自とするか判断)
- 拝観料 500円(会が助成)

今春の「お花見ウォーク」は雨で中止せざるをえませんでした。その代わりに秋のウォーキングを企画しました。11月28日、新座市にある紅葉で有名な関東の名刹「平林寺」を訪ねる小さな旅です。

コースは別記のとおりで、平林寺にて解散なら境内散策を含めて約5.6km、新座駅まで歩いて帰っても約8.3kmです。紅葉シーズンの平林寺は、バスツアーも組まれるなど人気が高く、かなり混みますので、清掃退職者会ウォーキングお馴染みの「みんなで車座になって屋外でお昼を食べる」とことは境内ではかかないませんが、「一度は観てみたい紅葉の名刹の平林寺」といわれる名刹の散策を楽しみたいと思います。歩くのが苦手な人向きのショートカットも用意します。家族や友人を誘い参加ください。

### 来春までの親睦行事

- 新春の集い
  - 〈日時〉 1月25日(土)
  - 〈場所〉 小石川後樂園
  - 〈会費〉 未定(検討中)
- 演芸を楽しむ会
  - 〈日時〉 3月6日(木)
  - 〈場所〉 国立演芸場
  - 〈会費〉 1,000円の予定
- お花見ウォーク2014
  - 〈日時〉 4月中旬
  - 〈場所〉 浜離宮庭園等

※以上の行事を企画部会中心に検討しています。

## 都庁退第10回 学習交流集会

### 社会保障制度改革国民会議報告 (川端講師)と組織強化の取組み (北條会長報告)の2つがテーマ

都庁職員退職者連合会(都庁退)は、9月23日(24日)に、市町村共済保養所「シーサイドいずたが」で学習交流集会を開きました。今年で10回目です。

参加人員は、事務局と8単会合計で43名。清掃退からは北條会長、柳副会長、庄司事務局長、岩淵会計監査が参加しました。

開会にあたり、花輪都庁退会長より「今の安倍政権は借金だらけの自転車操業だ。いづれ長くはもつまい。」などのお話がありました。

学習会第一のテーマは、「社会保障制度改革国民会議報告の検証」。川端邦彦自治退事務局長より中味がくわしく報告されました。

国民会議のメンバーは学識経験者中心で、利害関係者が入っていないことがポイントとのこと、大筋では退職者

連合の主張と重なる部分がある反面、同意できない内容も多く含まれているため、今後の法案審議・制度改定に向けて社会保障の機能強化とそれを担保する財源確保等で連合と協力して具体的に闘う必要があると、強調されました。

詳細については9月18日に清掃退職者会で同じ講師で同様の学習会をしており、その内容は機関紙50号(10月)に記載されている通りです。熟読をお願いします。また、下段に補足記事を載せてありますので参照してください。

第二のテーマは、「組織強化の取組み」でした。短期間で会員を増強した清掃退の取組みについて、北條会長が講演しました。「組織は人と人のつながりが最大のポイント。それを大事にして会員を増やす努力をしよう。」と、熱く語られました。

改めて納得し、頑張らなければと思いました。(岩淵)

## 社会保障制度改革国民会議報告の検証

地公退は、社会保障制度改革国民会議報告に対する見解を発表しています。その内容は9月18日の清掃退学習会や上段の都庁退学習会で説明されました。本紙10月号の関連記事は「介護」に重点をあてた内容でしたので、補足のため、具体的施策提案のうちの年金についてふれることにします。

### 年金に関する具体的施策

#### (1)年金制度体系

「負担も給付も所得に応じた形の年金制度は一つの理想形だが、正確な所得捕捉や事業所得と給与所得の保険料付加ベースの統一などの前提条件が整っていない。」と、「新年金制度」案は現実性を欠くので将来課題とし、現行制度の延長で実行可能な改革をすることを考え方は地公退の主張と一致。

#### (2)マクロ経済スライド実施

将来の保険料率を固定し、年金の支給総額が規定される仕組みである以上、一定の給付調整はやむを得ないが、デフレ時の適用は「名目年金額を切り下げしない」約束を反古にするものであり反対。基礎年金にはこの調整を及ぼすべきではない。

#### (3)短時間労働者の年金適用

地公退の要求と一致、速やかに実施すべき。また、低所得で年金掛金負担が困難な者向けに、雇用主負担保険料のみを課す制度を検討すること。

#### (4)高齢期の就労と年金受給

年金受給開始年齢の引き上げ問題は、これから年金受給する現役世代の判断事項。仮に実施するときは雇用と年金の接続が前提で、十分な説明と社会的合意形成が不可欠。

#### (5)高所得者の年金給付見直し

高所得者に年金財源の公費負担分をクローバック(高所得年金受給者に限り、全額または一部を国に払い戻させる制度)を求めていることは理解できる。この場合、高所得者の定義とクローバック実施基準について丁寧な説明と合意形成が不可欠。

※「医療」に関しては次号に。

# 原発ゼロ 統一★行動

「原発ゼロ☆統一行動」が行われました。首都圏反原発連合、さようなら原発1千万人アクション、原発をなくす全国連絡会が共同して呼びかけたもので、集会とデモに約4万人が参加しました。

日比谷公会堂で開かれた集会で、首都圏反原発連合のレツドウルフさんは「今、日本で原発は動いていない。再稼動を許さないため、一人一人声をあげよう。」と訴え、福島現地の声などに続いて大江健三郎さんは「3・11で多くの日本人は原発をなくすことを決意したが、今、多くの政治家はこの多数意見を無視している。子ども達が明日の世界を生きていけない場所を原子力



4万人結集、霞ヶ関・国会周辺を包囲

10月13日、霞ヶ関と国会議事堂周辺で、「原発ゼロ☆統一行動」により作り出したことの責任を自覚し、人間が本質的に生きていける世界を取り戻す必要がある」と呼び掛け、鎌田慧さんは、「原発はウソと金と脅しで作られてきた。民主主義の対極にある。再稼動を絶対させない運動を周辺自治体と連携して進め、福島から東京へ大行動を起そう」と発言



集会后、霞ヶ関や東京電力本店前を通るデモ行進が行われ、「原発はいらない!」「再稼動を許すな!」などの声を響かせて、脱原発を訴えました。

## 反貧困＝社会的連帯がキーワード



「反貧困世直し大集会」は、毎年10月17日の世界貧困撲滅デーにあわせて開催されています。今年は10月14日に四谷区民ホールでもたれました。格差が拡大し、一度外れたら戻ることが困難な社会構造の下、日本の貧困率は先進30国中4番目という高さです。この事実が隠され続けてきた中で、年越し派遣村等の活動により貧困は「可視化」されたものの、生活保護バッシングにみられるように、反貧困の闘いは不十分です。「社会的連帯」が今こそ問われています。



## 団結まつり

10月27日、亀戸中央公園で、今年も「団結まつり」が開催されました。今年のメインスローガンは、「なくそう原発! とめよう雇用破壊! ゆるすな改憲!」。国鉄闘争の終結により規模は小さくなりましたが、反原発交流や争議団交流等が活発に行われ、天候にもめぐまれて、多くの労働組合、地域共闘組織、争議団、市民が集まりました。東京清掃は従来の各地連参加から本部テント一棹の参加に縮小しましたが、まつりの成功に寄与しました。

# 東京清掃第82回定期大会



吉田委員長



瀬川副委員長



大和田副委員長



染書記長



桐田書記次長



第82回定期大会

東京清掃労働組合



北條会長  
激励挨拶

9月29日、東京清掃の第82回定期大会が清掃会館にほど近いベルサークル飯田橋駅前ホールで開かれ、北條会長、庄司事務局長、戸枝会計が参加しました。

吉田委員長は、挨拶の冒頭「元委員長の栗田さん、大久保元さん、退

職者会元会長の小泉さんが他界された。東京清掃のため永きに亘り貢献いただいた。東京清掃の発展と強化に努めることを誓い、ご冥福をお祈りする。」と発言しました。挨拶のまとめとして「東京清掃の組織強化を基本に、関連労働者、地域労働者、市民団体等多くの仲間と連帯し運動を前進させる」社会的連帯の重要性を訴えました。

来賓として北條会長は

「私は小二で敗戦を迎え悲惨な経験をした。平和は大事だ。何としても守りたい。」と後輩に経験を語り、「現退一致の立場から、精一杯協力していきたい。」とエールをおくりました。

大会議論は、

## 東京清掃常任中央執行委員

- 中央執行委員長 吉田 寿(練馬)
- 副中央執行委員長 瀬川 朗(墨田)
- 副中央執行委員長 大和田功治(渋谷)
- 書記長 染 裕之(中野)
- 書記次長 桐田 達也(文京)
- 財政部部長 山崎 努(江戸川)
- 組織部部長 森田 裕二(港)
- 共闘部部長 齊藤 幸司(墨田)
- 賃金部部長 横須賀 博(台東)
- 現業部部長 坂本 浩明(玉川)
- 教育宣伝部長 野崎 優三(板橋東)

①車付雇上に対する取組み、②新規採用獲得の闘い、③高齢期雇用問題、④清掃工場への水銀違法搬入の対策、⑤工場支部組織の実態と対策、⑥差別人権問題の取組み強化などが中心でした。

今年には人事の改選期でした。新しい常任体制は別記のように、さらに若返りました。ガンバレ！東京清掃。

10月9日、特別区人事委員会は、①月例給0・14% (588円) 引下げ、②一時金(3・95月) 据え置き、③住居手当支給を借家・借間居住者に限定する等の勧告を行いました。

東京清掃は、この不当勧告に抗して、現業賃金改善、住居手当改悪撤回などを求めて闘っていくことになりました。

10月22日、連合会館(旧総評会館)で賃金確定第一波総決起集会が開かれ、北條会長と小林事務局次長が激励しました。今年の賃闘では、地連別決起集会にも参加し、より一層連帯を深めていきます。

